

## 第9回 現代世界の系統地理的考察

## ■■ 自然環境編 ■■

## 日本の地形や気候を見てみよう

監修・講師

田代 博

## 学習のねらい

日本列島は、4枚のプレートの境界にあり、世界の中でも地殻変動が激しく、地震や火山活動が活発な地域の1つである。日本は、ユーラシア大陸の東岸に位置し、季節風（モンスーン）の影響で四季の変化が明瞭である。地形も気候に大きな影響を与えている。日本は、地震や火山活動、台風などによる自然現象により多くの災害が発生している。自然現象と災害の関係や、防災や減災の考え方、さらにハザードマップについても学習しよう。

## 今回のポイント

- 日本の地形
- 日本の気候
- 開発に伴う災害と防災

## ■■■ 日本の地形 ■■■

日本列島は、ユーラシア大陸の東端にあった大地が、プレートの動きによって大陸から分離してできた弧状列島であり、5つの島弧の集合体である。プレートの運動により押されて隆起する地域が多く、国土の約7割を山地が占めている。海洋プレートの沈み込みは活発な火山活動をもたらし、海溝とほぼ平行に火山前線（火山フロント）が分布している。

日本一の高さの富士山は3つのプレートがぶつかり合うところにできた火山である。

河川による侵食活動も盛んで、山地は多くの谷に刻まれており、運ばれた土砂で沖積平野が形成されている。

平地と山地の境界付近には活断層が分布することが多く、地震も発生する。

本州のほぼ中央にフォッサマグナと呼ばれる大陥没帯（大地溝帯）がある。西側の境界は明瞭な大断層で、糸魚川・静岡構造線と呼ばれる。これにより北アメリカプレート側の東北日本とユーラシアプレート側の西南日本に分けられる。西南日本は、中央構造線によりさらに2つに分けられる。

## ■■■ 日本の気候 ■■■

温帯に位置している日本は、季節風（モンスーン）の影響により四季の変化が明瞭である。

冬は大陸からの季節風で、日本海側に大量の雪が降り、太平洋側は乾燥する。春は高気圧と低気圧が交互に通過。フェーン現象によって、山ではなだれが発生することもある。夏は梅雨

